



幼稚園の局外觀

川口孫治郎

幼稚なりし幼稚園事業も日増成成長して來たと見えて、反對論者まで早く「上流と下流とは必要だ」といふところまで進んで來たやうである。況して健全な適度の生活をして居る中流人士の頭には幼稚園の必要を云々する必要が最早なかりさうになつた。

若し之ありとせば、恰も生理衛生の一斑を嚙つたものが、却て國手の診斷に反對して、「私は此處が斯う痛みますから胃病であらうと思ひます」とか「肺病であると思ひます」とかいつて、自分で自分の病氣をこしらへ、素直に國手の投藥を服用し之をして正當に作用せしむることの出來ぬ中途半

端の患者となると同様の人々であらう。此様な患者には藥は容易に施す必要がない。「藥をどうぞ下さい」といつて來た其時に世話してやれば、曹達でも機那の作用をするに相違ない。若し又到頭藥を求めない養分を求めないものあらばそれでも少しも差支はない。教化の事業は大仕事であるから時代で押して行く、其時代の間に可成程よく可成廣大に推ぶうといふ丈が眼目であらうかと思ふ。學者の中にも大体説の定つて居ることだから、別に今更事新しくいふ必要はありませぬが、稀には風の變つたいひ方や、調子いぢがふ議論をしたがる人もある。教育者の會合に出席して演説するのには、殊更に其題目を「教育者の無氣力」とか「教育者の没常識」とか、聽衆にいふのか演者自身の懺悔だか分らぬやうな文字にとつたかといふ噂も聞いたが、保育者の會に幼稚園の不必要などを、得意氣に述べ立つるなども、面白い。根本から打毀さるべきものならば打毀さるゝが當然のことです。

あるが。或種の専門流の虚榮心を満足せしむべく、堂々たる大會が之を撃ぎ上くるところなども面白といへば面白い。

尤も、學者の中には忠實な考へから、勢の傾くところ尋常手段では睡氣が醒めぬ、興奮せしむる爲には非常手段として劇薬を注射しければならぬ、と見てとつた其場合に、闇の夜中に途方もない半鐘を敲くこともある。半睡半起のものは勿論、熟睡して居つたもの迄も袴を被つて羽織を穿いて駆け出す、後で忠實な學者は聊か度の過ぎたのに後悔し、人格の如何によつては、却て冷やかに微笑して居る學者もある。唯氣の毒なのは、誤られたる當事者である。

初等教育者からは、何時も、稱揚せられて居る幼稚園出身者は、萬事によく氣がつくとか、言語が明瞭だとか、小學校に來ても直ぐに教授が受け得られるとか、唱歌の耳をもつて居るとか。但し之は當り前のことである。それがなくては少

し可笑しな氣味がするやうに思へる。

初等教育者からは常に小言を受くる。人慣れて居るから腕白で困るとか、傲慢でいけないとか、不注意で仕末におへないとか、服従心が足りないとか、甚しきは先生の御話も茶々苦茶にするとかいふやうな滑稽めいた、批難を頂戴して居るやうである。併し、

併し、小學校で先生の注文通りに行くのが必しも個人の將來の爲國家の前途の爲ともいへない、小兒の腕白は持前である。いたづらをしなくては辛抱の出來ないなどは誠に國家の爲に慶賀すべきところであらう。

小兒の傲慢をあまり云々する資格は大人にもさう十分にはないのである。小兒のは寧ろ天真爛漫で可愛い、それを機會に益々程よく育て、行けることだらうと思ふ。大人イヂメならば面白いが小兒をさういぢめてはいけない。今少し小供になりか

不注意で仕末にかへない。といふことも亦さうである。之は幼稚園の保育の結果、小兒らしく小學校先生の参考の材料を供して居るのであらう。注意のままとまらないが多数の小兒の天性である。注意のつくく丈夫意して出来ない場合に露骨に散して居るのが、保育の効果の現はれたところであらう。家庭から直ぐに來た小兒が幼稚園出身者より永く注意が續くと獨斷するのは「小兒の注意」といふことに眞に深く實際に専門の研究が屈いてゐないのであるまいかと失禮だが申す丈の少許の研究をして見たことがあります、イヤ之は傲慢でしたら御免なさい。

服従心が足りない、とか、之も大切の徳を欠いた次第でありさうである。が根が小兒である。小兒にして服従心の足りないまでに發達すれば誠に或意味に於て結構であるが、或場合には、御命令が徹しなかつた爲に盲従しなかつたことや、既に承知して居つたことであつた爲に大人であつたら、

六
ハイ御尤です私も先刻承知を致して御座つたと咽元で押へてしまつたらうけれど、それを押へるまでにコチケないで、チイ〜手出し足振をやることもありませう、強ち服従心が足りないでもわるまい、適當に教育を受ける状態に向つて居るのであらう、幼兒や兒童の中には先生よりエライものが這入つて居ないでもない、どうも局外にはさう見ゆる。

先生の御話を失禮ながら横道へ引込む丈の器量があらば少々豫期以上に發達……自然の發達を遂げて居るとも在せられて、何だか可笑しくもなるやうな心地も致します。尤も幼稚園當事者にはいろ〜考もありませうが、局外觀では、非常に、こんなところが面白い。

當事者の中にも、幼稚園の効果を疑ふ人があるとか、それは面白い。疑ふは知るの始め、幼稚園も又其當人も誠に仕合であるから。疑ふならば疑ひ果たすが相互の爲である。保母をやつて居らる

方でも現に人の子供ならば世話をして居るが、自分の子ならばドウも入園せしめやうとは思はぬしか、いつたとか、それでもそれは皆各人の考へで局外からは別に怪しいことはない、多数の人々の中には必ずしも萬人の感心し賛成することの出来ぬことは有り勝ちのことであらう。唯防火の守護神の愛宕が自分で火を出す一景は、局外の奇観とするところ、否々何れの社會にも往々あり得ること、人の花見れば美してふ俗情であらう。斯ういふ考を起す人も、大局から打算すれば幼稚園事業の發達に資するわけでもあらう。

幼稚園を熱心に辯護する人は、之に對して憤慨して、其業にたづさはりながら其業を輕んずるとは、義理からでも出来るをかと詰責の勢いであるやうである。御尤もに存するが、幼稚園事業が唯其當事者が之が爲に生活するから其義理から擁護せられぬばならぬ、といふやうにも聞えて、局外の者が聞いてもあまり胸の透くやうな感じもしな

い。況して當事者の心ある方々をや。吾輩は幼稚園に對して恩讐がない。國家國民の將來の爲に謹んで謝意を表する丈は人後に落つるものではないが、別に御世辭をふりまく必要は瓜から先きもない。其眼からみれば、幼稚園は人に對する義理だの、人情だの職分に對する義理人情などいふ、果敢ない土臺の上に立つて居らうかとは思はない。あまり熱心の辯護はヒーキの引倒し、幼稚園事業の爲でもあるまい。大体に關する幼稚園問題は既に物數いはぬ多數の上中下流を通じて黙つたまゝに解決せられて居るのである、大勢はチャンと定まつて居ると吾輩局外觀にも映ずる。

併し學校設置の必要を説明する必要のあつた時代さへあつたのだから、比較的後に發芽した幼稚園事業の如きも、地方などでは諄々と幼兒の保護者あたりから、保育して行かぬばならぬこともあらうし、又甚だ失禮ではありまするが年若い御經驗のあまり十二分に御積みになつて居られない

方々には御自分で御自分を御保育なさる必要も神ならぬ人の身としては御座いませうし、それやこれやで、幼稚園の要不要の如き明瞭な問題を始として此事業の諸問題に關して論難攻撃をやることに面白、否面白などいふ問題でなくて、幼稚園事業の爲であらう。

二た言めには、歐米の學者がドウいふたなどは、随分自身を御信任になつた御方が殊に申さるゝ、俗物威嚇にもよく、外國語を讀めない人の前では學者風を吹かすにもよく、傳聞いたすものも定めて隨喜の涙にむせぶことと思へる、肝腎の主張者も遙に傳聞して満足至極か或はドウかは暫く別問題として、國土、人情、風俗、及時代の推移したる今日、尙ほ折々其取扱を忝うするは之も幼稚園事業にとりて誠に忠臣である、決して時折の火元を異様に思つてはならぬ。

仁に當つては師に譲らず、時代は新なる要求をなすフ氏の主唱の大趣意は飽くまでも尊敬しや

う、實際のやり方には、時處によつて卷舒其程をよくするところに更に味が生ずることであらう。

八

大人は赤子の心を失はず、今後の幼稚園に望ましきは、小供でもなく大人でもなく中途の何方へもつかずといふやうな如何はしい参酌をした態度に陥ることなく、ドン／＼無邪氣に大膽に其主義綱領と實際とを、人の知れると知らざるとに論なく天下に布くことは、決して幼稚園事業夫自身の爲のみでなからうと思ふ。何時の時代が来たとして小兒のない時代は決してない筈である。

